

親 鸞 思 想 の 解 明

会 場： 東京国際フォーラム G棟（地図は裏面を参照ください。）

※ ご参加の予約は不要です。

なお、満席の場合には先着順となりますのでご了承ください。（定員：80名）

日 時： 4月は休講いたします。

第121回 5月 7日（火）G棟502 18:30~20:30（受付 18:00）

第122回 6月 3日（月）G棟602 18:30~20:30（受付 18:00）

講 題： 浄土を求めさせたもの—『大無量寿経』を読む—

講 師： 親鸞仏教センター所長 本多弘之

テキスト： 『真宗聖典』〈ご希望の方は、東本願寺出版（下記）までご注文ください。〉

TEL 075-371-9189 FAX 075-371-9211

●インターネットでの書籍のお求めは、

URL <http://books.higashihonganji.or.jp>

TOMOぶっく

検索

click

聴講料： 無 料

※ 講義（問題提起）後、ご参加の方々との質疑応答の時間を設けております。
お気軽にご参加ください。

講座開設の趣旨

現代文明の溢れる人間社会を生きているものにとって、入手できる情報の範囲は
ずいぶん広がってはいる。しかし、生まれてから死ぬまで、それぞれの人が与えら
れる自己の状況に、自分自身が納得し、^{うなず}ころから領けるかというなら、決してそ
うではない。一般的な条件と、ことさらに自分に起こってくる事件や事実との間に
は、どう考えても不条理だとしか考えられない落差が出てくるからである。その落
差を、^{しゆくごういんねん}仏教的表現では「宿業因縁」と教えるのであるが、この宿業因縁を自己に必
然の事実であると引き受けることは容易ではない。

その落差の条件を^{ひゆ}比喩的に表現するなら、「届かない彼方」^{かなた}とか「見えざる背景」
とか、あるいは「自己に^{ごうほう}負荷されている祖先の業報」というのであろう。これは、
^{ふんべつ}理知分別の計数には決して翻訳できない人間の条件なのである。しかもそれが、現
実のわれらの生存を厳粛に規定している。この宿業因縁の圧迫から解放しようとす
る要求が、「浄土を求めさせる要求」の深みにあるのではなかろうか。

本多弘之

主 催：親鸞仏教センター（真宗大谷派）

〒113-0034 東京都文京区湯島2丁目19-11

TEL 03-3814-4900 FAX 03-3814-4901

E-mail shinran-bc@higashihonganji.or.jp

URL <http://shinran-bc.higashihonganji.or.jp>

Facebook <http://www.facebook.com/shinran.bc>

親鸞仏教センター

検索

click

本当に生きた人に遇いたい

私どもはこうして生きているけれど、生きていることの意味、生きることの本当の喜びを求める。本当に自分で自分に納得できるようなものに出会うとはどういうことなのか。こういうときに、やはり我々が求めるのは、本当に生きた人がいたら、その人に遇いたい。人間は、本当に生きることを教えてくれる生きざまをする人を求めているのだと思うのです。

そうした不思議な思いを私も青年期をもって、本当にそういう人がいるのだろうかと求めてみたけれども、それが見えない。本当に生きるということを生きている人が見えない。そういう思いがあって、結局、仏陀というような理想像がもしあって、それを本当に求めて生きている人がいるならという思いで京都へ行ったのです。今ごろになって、ああ、そういう要求があって行ったのかと思うのですけれども。

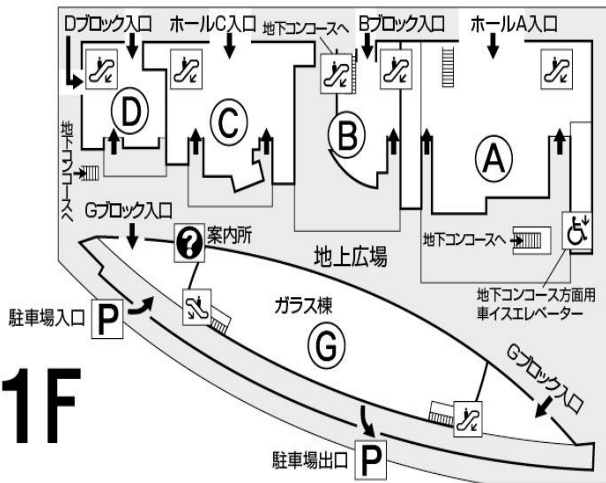
そうして出遇うことができた。出遇うことができたその人は、実は、本当に仏道を求めて生きた人を求めた人であった。その人がまた先に求めた人をモデルとして生きようとして、それがまた次々に人を呼び寄せて、人を生み出してくる。

それは結局、人を求めるように見えるけれど、人ではなくて、人を生かしている真理性、「ダルマ」と言われる法があって、その法を求めて、法を生きようとする。つまり、本当の命を与えてくれるものを求める。そういうことが人間として生きるということには常に与えられているのかなと思うのです。人間を超えたものがあって、それを信ずる。

けれども、実際は、例えばキリスト教であれば、イエスという人が現れて、教学ができるけれども、そのイエス像を求める。そういうことが生きたキリスト教を常に新しく新しく生かしている。仏教であれば、お釈迦さまが苦悩して求めた、その姿を求める。お釈迦さま自身が人に依るな、法を生きよと、こう遺言したと言われている。しかし法、ダルマを求めると言うけれど、ダルマそのものは、そのダルマと称される真理性を信じてそれを生きた人を通してはたらく。本当にこの^{もろよろみょうみょう}窈窈冥冥として何も見えない命を生きているにもかかわらず、そういう命を共に生きている中に、真理を求めて歩んだ人が灯火のように現れる。あとから行く者は、そういう者との出遇いを深く求めて歩んで行く。こういうことが説得力をもって教えとなり経典ともなり、そして新しく人を生みだしてくるのではないかと思うのです。

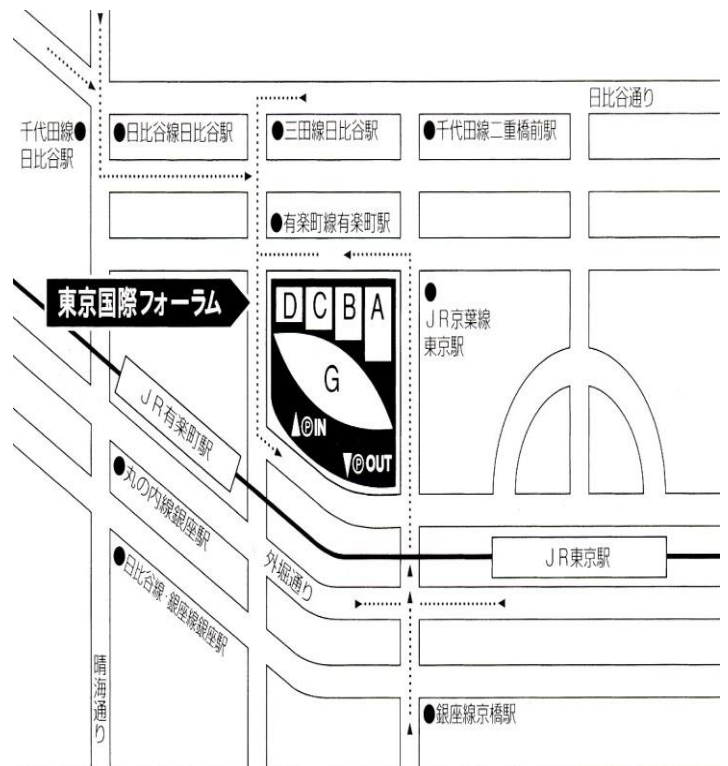
(『親鸞仏教センター通信』第68号〈第114回「親鸞思想の解明」〉より)

《場内案内図》 ※G棟会議室へは、地下1階のエレベーターをご利用ください。



1F

《会場までのアクセス》



A: ホールA B: ホールB7、ホールB5 C: ホールC D: ホールD7、ホールD5、ホールD1
G: ロビー・ギャラリー、会議室、展示ホール

- JR線 有楽町駅より徒歩1分
東京駅より徒歩5分(京葉線東京駅と地下1階コンコースにて連絡)
- 地下鉄 有楽町線 有楽町駅と地下1階コンコースにて連絡

→ 車輛導入路



地下1F

会議室 G401~G701へ
7Fレストラン・ラウンジへ